

人民戦線

復刻版
全5巻
別冊1

中西伊之助 編集発行人

人民戦線社 発行所

一九四五（昭和二〇）年一二月

一九四九（昭和二四）年七月刊

解説 勝村誠（立命館大学）

秦重雄（大阪府立成城高校）

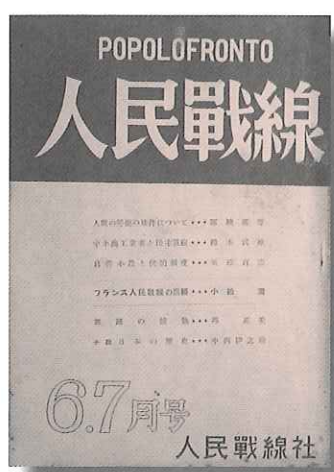
推薦 高柳俊男・西田勝

定価 六八、〇〇〇円＋税

二〇〇六年一〇月刊行

日本人自身による民主化と
天皇制撤廃を主張！
政治評論と文化創造の総合雑誌

LE FRONT POPULAIRE
人民戦線
人民文化同盟
機関雑誌
創刊號



不二出版

目次

「人民言」
民主主義と産業の検討 中西伊之助
日本歴史と産業の検討 中西伊之助
婦人参政権問題 田村紫太郎
人民の新しい政治の考へ方 小泉喜久
詩 田村紫太郎
「人民歴史」
勤勞者文學の使命 船野與次郎
その前後の爲に 清水一男
國鐵五十萬の兄弟の呼びかけ 漢一
詩
「レーニン」のアムステルダム 由次
「人民文化同盟」の歴史 由次
編輯後記 由次

Vol. 1 N

日本人自身による民主主義の実現をはかるために、すべての民主主義諸勢力——日本社会党、日本共産党、労働団体、農民組合、文化団体等——を結集して民主人民戦線をつくる必要がある。このような理念の下に『人民戦線』は一九四五年一二月、人民文化同盟の機関誌として創刊された。

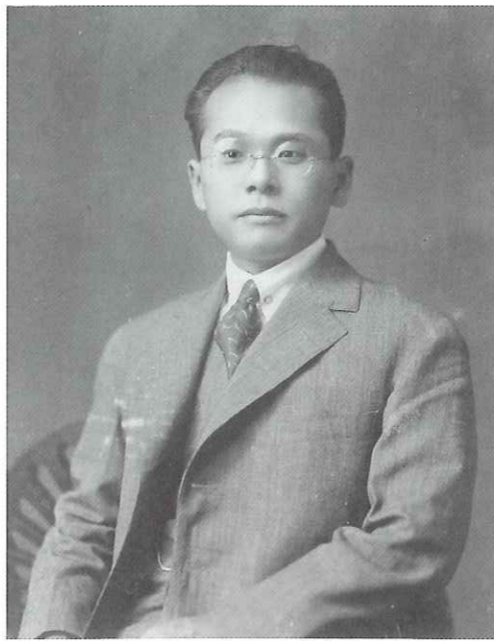
編集兼発行人は小説家・社会運動家として知られる中西伊之助、発行所は神奈川県片瀬町の人民戦線社である。人民文化同盟とは中西が組織した少数の青年文化人と学生たちの文化運動グループであり、彼らは、敗戦後もファシズムが継続しているとの時代認識から、戦前戦後の体制への徹底批判とともに「天皇制の撤廃」を主張したのであった。

自由主義者からコミュニストにいたる多様な知識人や作家に誌面を提供した本誌は、敗戦直後の労働組合運動、総選挙、食糧危機問題、女性の権利等を論じる一方で、多彩な文芸作品と批評を幅広く掲載し、エスペ란

トの普及にもつとめた総合雑誌であった。

『人民戦線』の終刊は一九四九年七月の第三三号であった。本誌が一貫してめざした理想は残念ながら戦後日本政治において現実化しなかつたが、その精神は繰り返し検討されるべき現代の課題でもある。ここに全号を復刻し、研究者に提供する次第である。

不二出版



▲中西伊之助 (写真提供 中西國夫氏)

●中西伊之助 略年譜	
1887(明治20)	京都府久世郡横島村(現・宇治市横島)に生まれる。生家が没落し少年期より過酷な労働に従事する。
1904(明治37)	日露戦争中に対馬に渡り海軍工廠竹敷修理工場で働く。キリスト教に入信。
1905(明治38)	日露戦争中に対馬を離れて上京。
1907(明治40)	日比谷焼き討ち事件に参加。
1911(明治44)	朝鮮平壤へ渡る。新聞記者になって寺内総督攻撃や労働者虐待の暴露記事を書き4ヶ月入獄。
1913(天2頃)	東京に戻る。
1919(天8)	早稲田大学、中央大学、国民英学会に通学。
1920(天9)	堺利彦の売文社に入りして社会主義理論を学ぶ。
1922(天11)	日本交通労働組合を創立し理事長に選出される。
1923(天12)	東京市電争議の全線罷業を指導し、検挙・投獄される。
1924(天13)	『文芸戦線』同人。
1925(天14)	下中弥三郎、石川三四郎、渋谷定輔らと農民の自治自主主義をめざした農民自治会を結成。
1926(天15)	農民自治会連合委員に選ばれ、『自治農民』を創刊。
1928(昭3)	日本無産派文芸連盟を結成。朝鮮プロレタリア文学同盟(カップ)等との団体と交流。
1929(昭4)	無産大衆党に参加、中央委員に選出される。
1937(昭12)	無産大衆党除名。東京無産党、全国無産大衆党に参加。日本無産党の常任委員となり、労働派の第1次人民戦線事件で検挙。
1945(昭20)	人民文化同盟を組織し『人民戦線』を創刊。
1946(昭21)	戦後初の衆議院議員選挙に日本共産党から立候補し次点落選。のち繰り上げ当選。
1948(昭23)	長編小説『日本の歴史』出版。
1949(昭24)	衆議院選挙神奈川県3区より立候補し当選。
1952(昭27)	日本共産党からの離党を表明。小説『赤い絨毯』を出版。
1953(昭28)	第3回参議院議員選挙に全国区から無所属で立候補し、落選。
1957(昭32)	小豆島に渡り執筆に専念。『筑紫野写生帳』出版。
1958(昭33)	日本共産党第7回大会で『51年綱領』が廃棄されたのち復党。この年、死去。

戦後の初心を熱く伝える貴重な営み

高柳俊男

法政大学国際文化学部教授

中西伊之助といえは、併合直後の朝鮮植民地支配の実態を、長篇小説『楮土に芽ぐむもの』で描写したこと、東京市電の争議を指導したこと、農民自治会の運動に関わったことなど、文学運動や社会運動の節目節目で注目すべき働きをした人物として知られる。

大学卒業に際して、私はその中西伊之助を研究テーマに選んだ。朝鮮との関わりが中心だが、彼の歩んだ紆余曲折の道を通りたどるなかで、中西やその一家が戦後初期に大きな犠牲を払いながら、雑誌『人民戦線』を出し続けたことを知った。全冊揃いで所蔵している機関が見当たらず、黄ばんだ雑誌を求めていくつかの図書館に足を運んだことを思い出す。その懐かしの『人民戦線』が刊行から半世紀以上の時を経て、この度復刻されるといふ。驚きと喜びを禁じえない。

敗戦による転換期の激動のなかで、多くの雑誌が創刊されたが、この『人民戦線』は戦前の体制への徹底した批判のうえに、新たな日本を民衆の力で建設しようという変革の志に貫かれていた。また神奈川県の一地方都市で、有力出版社を後ろ楯にせず刊行されたにもかかわらず、当時の錚々たるメンバーが誌面に名を連ねたという点でも、特異と言えるかもしれない。中西伊之助の戦前からの人脈や活動歴のなせるわざであろう。

戦後六十年以上が過ぎ、あらためて「戦後」が問われている今だからこそ、戦後の初心の息吹を熱く伝えるこの『人民戦線』を復刻する意義があると思う。大学の図書館や研究者に広くお薦めしたい。

(たかやなぎ・としお)

戦後の原点を示す

西田 勝

文芸評論家

一九四五年八月の敗戦は圧倒的多数の日本人に虚脱状態をもたらした。獄中であつた革命家をふくめて、日本人自身の力によって軍国主義からの解放を勝ち取ったのではなかったからだ。長い間、屈従を強いられ、戦時体制に組み込まれ、積極・消極の違いこそあれ、軍国主義に加担してきた知識人にとって、新たな第一歩を踏み出すには、外的にも内的にも大きな躊躇があつた。そんな状況のなかで、いち早く自由主義者からコムニストまでをふくむ「人民戦線」を再建し、日本人自身による民主主義日本の実現をはかろうとしたのが中西伊之助らの人民文化同盟の活動だった。

「天皇制の撤廃」なしには、「日本の民主主義革命」は不可能であるというのが、その基調だった。

『人民戦線』は、その文化同盟の機関誌だ。新憲法の成立に大きな役割を果たした鈴木安蔵や、のちに釜石市の市長となった鈴木東民が当初から参加しているのも興味深い。小川未明をはじめ多くの作家たちも寄稿している。たとえば平林たい子は囚われぬ眼で天皇を描くことを主張し、中野重治は戦時下の右翼雑誌を取り上げ、軍指導部の言葉として「従軍慰安婦」が軍の一部であり、「必要品」であつたことを明らかにしている。また小田切秀雄は各自がそれぞれに「私の中にあるさまざまなどろどろしたものや暗黒」に向き合い、そのことよつて、かつての「理想主義的情熱」と「同志愛」を再建することの必要を訴えている。この小田切の主張には、中西が「大切な点を具体的に突込んで」といふと応じている。

(にしだ・まさる)

主要執筆者

- 赤松俊子
- 安部正純
- 磯田純
- 石母田律
- 伊藤上順
- 岩上巖
- 内田巖
- 江口渙
- 江森己之助
- 太田典礼
- 岡本邦雄
- 岡本未明
- 小川切秀雄
- 小田切秀雄
- 風早八十
- 鹿地晴子
- 金子近半
- 神木重太郎
- 黒木松次郎
- 小松和逸
- 今向佐多
- 志賀賀東
- 鈴木安子
- 鈴木鑑子
- 千田是也
- 田村栄太郎
- 田村喬雄
- 陣屋球一
- 徳永直
- 永井健蔵
- 中西伊之助
- 中野重格
- 新居繁一郎
- 新島五郎
- 野上仁子
- 羽仁五子
- 林要樹
- 葉山敬太
- 土方林たい子
- 深尾須磨子
- 福本和夫
- 帆足計六
- 細田春樹
- 帆田解吉
- 松濃部亮平
- 美田愛子
- 森村吉太郎
- 山村喜三郎
- 除村喜志子
- 横田喜志子
- 若山渡辺
- 渡辺順三

第四年第十九・二十號

人民戦線春季特集號目次

(主張と批判) 買収國會と選舉法の改正 中西伊之助

文化日本の世界的水準 羽仁五郎

邦舞の藝術的基本性格 近藤忠義

日本繪畫の國際的地位 兼野上豊一郎

日本建築の美について 兼小池重夫

人二民二戰二線 小池重夫

勞農今昔物語 今池太郎

日本實況哀史(三)(古代) 和次郎

二最近のソヴェト事情二 山哲

詩・そばの店 山哲

☆春の歌 野坂愛子

☆話☆レニ名集 佐藤さち子

(長篇小説) 日本の歴史(第十一回) 内田巖

中山伊之助(五三)

目次見本



昭和22年11月13日 人民戦線社箱根慰労会記念撮影。右から中西伊之助、中西國夫、小林和枝、甘粕久江、大橋礼子、中西とみ子、会田信一(写真提供 中西國夫氏)

柱

金子光晴

その尖端が青空に消え入る
一本の太い柱、
それをすがつて神達が降りて来た。

柱にひびく強風のあよりは、まるで
百打のビール罐がぶれ廻るやうだ。
ふりあふくと、僕の眼を引きつれて

柱は、地を忘れ、羽のやうなかるまで
星塵から星塵を翔ぶ。

その尖端が青空にとけ入る
一本の太い柱
それをすがつて神達がみな歸つていった。

神といつてもいろいろな奴がある。漁りや
手業のはやい奴、緒つ面の元氣のいぬ、奴、
猿のやうに狡猾で、すぐけらけら笑ふ偽僕
の神、むつりな神、惨忍な奴、卑猥な神、
そのおびただしい神たちがあとから、あと
から、柱をつたつて、焼けつくアスファルト
道へとどてま。

(10)

天皇の小説

平林たい子

この小説が自由になつて私達の小説の材料
であつて、神ではないといひながら、やはり神に
等しい純粹な人格者としてしか人民に示し得ない所に
今の政治制度の限界があり、その限界が私達に文學の
上で扱つてみたい特別な興味を湧かせるのである。

勿論、天皇の人格を、帝位から引取り去らなくては
ならないが、古い文獻にはたくさんあつて、「水鏡」は「源氏物語」
よりもはるかに古い文獻だ。それによつて、「源氏物語」
の神話的・魔術的な思想とは非常にちがう立場で描かれて
いて、神話的・魔術的な思想とは非常にちがう立場で描かれて
いて、神話的・魔術的な思想とは非常にちがう立場で描かれて
いて、神話的・魔術的な思想とは非常にちがう立場で描かれて

中西伊之助

(11)

●復刻版概要

人民戦線

全五卷十別冊一

人民戦線社発行／中西伊之助 編集発行人

1945年12月(創刊号)～1949年7月(第33号)の全24冊を五巻に合本

体裁——A5判／上製／総一、七〇〇頁

別冊——解説・総目次・執筆者索引

別冊のみ分売可〓本体価格一、〇〇〇円＋税

ISBN4-8350-5743-0

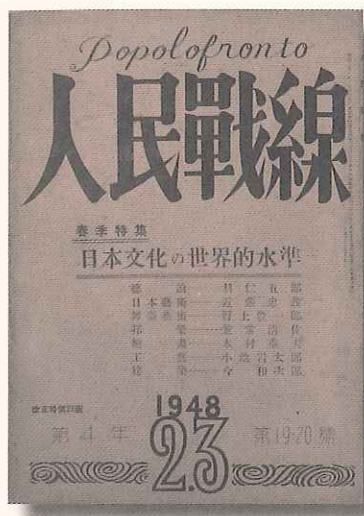
解説——勝村 誠 (立命館大学政策科学部助教授)
秦 重雄 (大阪府立成城高校教諭)

原本提供——秦 重雄・大和田 茂・勝村 誠・高柳俊男

刊行——二〇〇六年一〇月

推薦——高柳俊男・西田 勝

定価——本体六八、〇〇〇円＋税 ISBN4-8350-5737-6



●関連図書

文学時標 復刻版

全一冊

文学時標社刊(昭和二年刊)

B5判・上製・総九〇頁

解説〓伊藤成彦／総目次・索引付き

回想〓小田切秀雄・小田切 進・佐々木基一

定価〓本体二、〇〇〇円＋税

サークル村 復刻版

全三巻十附録一十別冊一

収録内容

第一巻『サークル村』一九五八年九月～五九年六月・A5判

第二巻『サークル村』一九五九年七月～六〇年五月・A5判

第三巻『サークル村』一九六〇年九月～六一年一〇月・B5判

附 録『労働藝術』・『地下戦線』・『炭鉱長屋』 B5判

A5判・B5判・上製・総一、九一二頁

別冊〓解説・回想・総目次・執筆者索引

別冊のみ分売可〓本体価格一、〇〇〇円＋税

解説〓井上洋子・坂口 博・松下博文

回想〓上田 博・加藤重一・河野信子・小日向哲也

定価〓本体六五、〇〇〇円＋税

推薦〓有馬学・池田浩士・上野千鶴子・鶴見俊輔

夕刊新大阪 復刻版

全一〇巻・別冊一

新大阪新聞社発行

(昭和二年～昭和二四年までを復刻)

A3判・上製・総二、八三二頁

別冊〓解説・主要記事索引

別冊のみ分売可〓本体価格三、〇〇〇円＋税

解説〓浦西和彦(関西大学文学部教授)

定価〓本体三〇、〇〇〇円＋税

推薦〓田辺聖子・谷沢永一・山内祥史・山本武利

原本提供〓兵庫県立図書館

●表示価格はすべて税別

不二出版

〒113-0026

東京都文京区向丘1-2-12

電話・03-3812-4433

ファクシミリ・03-3812-4464

振替・001600294084